

第 500 回金曜行動報告

まずは共催団体として大きなお力添えをいただいた「強制動員問題解決と過去清算のための共同行動」の皆さんに厚く御礼を申し上げます。名古屋だけの力では、とてもできなかった 500 回金曜行動・特別集会となりました。500 回という単なる「周年記念」行動にせず、厚い壁に一穴を開けるものにしたいたいとの思いから「寒い中、高齢の原告が三菱の門を叩く」とう行動を提起しました。その結果、三菱は門を開け、最低限の対応をしました。私たちがよく経験する省庁・役所・自衛隊・企業の「木で鼻をくくる対応」とは明らかに違っていました。誠実とは言わないまでも一字一句メモを取り、不明な翻訳言葉は問い質すなど「真剣且つ真面目に」話しに耳を傾けました。梁錦徳さんは「私は 91 歳になって明日死ぬかもしれない身だ。三菱の飛行機をつくるためにペンキ塗りをした。ケガをしたがその痛みは、今も残っている。75 年も過ぎたのになんの謝罪も賠償もない。このまま何もしないのなら、怒りの涙が川となり、その川に船を浮かべて、世界に怒りを発信する。生きているうちに、謝罪と賠償をなささい。」と訴え涙を拭きました。李國彦常任代表は、「日本が難しい状況にある中でよく面談に応じてくれた。しかし、大法院から最終判断が下ったのに何もしないのどういうことだ。グローバル企業であることを自覚し、いつまでも解決を引き延ばすべきではない。一刻も早く協議を再開して解決を踏み切らなければならぬ。」と訴えました。梁錦徳さんに失礼がないように「お茶くらい出すように」との要請にはペットボトルでしたが「温かい」お茶が出されました。時間は、30 分を目処にと言うことでしたが、正味 40 分近くになりました。先方に打ち切られるよりもましと思ひ、「今日お聞きした話は、関係部署にきちんとあげます。」との言質をとり、こちらから「それでは今日はありがとうございました」と伝え、終了しました。対応したのは、丸の内ビル以来の窓口担当で、現在は総務法務部（数年前に両部が合併）総務渉外担当課長と 2019 年 4 月に登場した同課長代理の二人でした。▶外務省面談は、「係争中なので、原告とは会えない」との回答でしたので、その他のメンバーでだけで会う「屈辱」は避けました。要請書は郵送しました。なお、外務省前宣伝行動には 57 名、三菱前宣伝行動は正確には分かりませんが、60 名くらいかと思います。チラシ配布枚数は、確認できていません。夜の集会参加者は、受付名簿確認では 97 名、用意した資料 100 部が全部なくなりました。参加者数が予想がつかない中、矢野さんの判断で「資料印刷は 100 部としました」とのこと、見事に的中しました。参加者は韓国光州から 20 名、同京畿道から 1 名の計 = 21 名、日本の都府県参加者は、西から長崎、福岡、広島、岡山、大阪、京都、富山、岐阜、愛知、静岡、神奈川、東京、埼玉、千葉の 1 都・2 府・11 県でした。国会議員の連帯挨拶は、本村伸子日本共産党衆議院議員、メッセージは、近藤昭一立憲民主党衆議院議員（アメリカへの出張のため）と大河原雅子立憲民主党参議院議員からいただきました。当日の横断幕は、光州「市民の会」と平山良平名古屋支援会スタッフの作品です。チラシ作成も同平山さんが担当し 300 枚用意、三菱への手渡し含め、市民と行動参加者に広く配布しましたが正確な枚数は確認できていません。「フライデーレポート」（石黒真知子作詞、原田義雄作曲）を原田義雄

会員が岡山から駆けつけ披露しました。全体としての成果は、「過去清算共同行動」との共催による 500 回行動を通して、「名古屋支援会」の活動と光州「市民の会」との連帯活動が全国的に認知されたこと、そして何よりも、三菱重工との「面談」が実現したことです。今後とも、500 回を新たな出発点として、解決めざして「あと一歩」、「あと一息」としつこく、粘り強く進みます。さらなる連帯強化を訴えます。

▶付言 1=マスメディアの対応は、TV は NHK が午後 4 時のニュースと午後 10 時に国際ニュースで報道しました。その他主要新聞に矢野さんと高橋がダブリを含めて取材要請をしましたが、報道を確認できたのは、事前報道が「東京」「岐阜」「琉球」「中国」「山形」、「秋田さきがけ」などいずれも「共同通信」、事後報道は、「東京」（共同通信）としんぶん赤旗（日刊・日曜版）のみです。その他、週刊「金曜日」が 1 月 24 日付で報道しました。日本のマスメディアはどうなっちゃたのでしょうか。三菱は「今日は日本のマスコミはどこが来ていましたか」と気にしていたのに。韓国メディアは、「市民の会」に同行してきた「全羅道ドットコム」と KBS。それ以外に東亜日報、京郷新聞、ハンギョレ新聞、KBS から名刺手渡し取材がありました。現在のところ私が確認できているのは、新聞では李國彦氏からメール転送されてきた「光州ドリーム」「無等日報」「京郷新聞」、TV では、SBS、KBS、光州 MBC、連合、JTBC ニュースです。▶付言 2=終了後の串八珍の打ち上げ懇親会は予約 40 名に対して、参加者は 43 名。これも大いにもりあがりました。（高橋信）

金曜行動 500回

2007年7月20日～ 足掛け13年

朝鮮女子勤労挺身隊訴訟の原告・金中坤さん

キム チュンゴンさんは男性です。なぜ金中坤さんが原告であったのか。妹の金淳禮(キムソル)さんが名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊290人の一人として、1944年5月末に三菱重工名古屋航空機製作所道徳工場に連れてこられ、三菱重工の第四菱和寮を寄宿舎として挺身隊生活を強いられた。



名古屋到着後の1944年6月名古屋城前 勤労挺身隊員の日課

6時起床、6時半から7時が朝食、7時半に第四菱和寮門前に集合、寮から工場へは挺身隊として隊伍を組んで行進し、8時から工場で労働につき、12時から13時が昼食と休憩、13時から17時半まで仕事、終了後また行進して寮に戻って夜食、入浴、就寝というのが日課であった。

朝鮮の少女がなぜ名古屋に

日中戦争から更に、太平洋戦争に戦線を広げた日本は、兵隊に取れる男を徴兵し、海外にどんどん出兵させた。陸軍や海軍の兵器廠も三菱重工のよ

うな軍需工場も武器弾薬をフル稼働させたい、そのため工員不足を当時の中学生や女学生の学徒動員で補う体制をとった。それでも足りない。朝鮮半島から国民学校を卒業した13歳から15歳の少女を、教員や校長が勧誘した。「日本に行ったら働けば給料はもちろん、うまいものは腹一杯、女学校にも通える」と言って。

朝鮮の少女にとって女学校は憧れそのものでした。「学校で勉強したい」この思いは向学心の強い子ほど、抑えがたいものとなった。金淳禮も日本行きので承を親に強く求めた。親に内緒に印鑑を持ち出し応募した子もいた。その一人が今日、東京にいらした原告の梁錦徳(ヤクドク)さんです。この賢い少女は、給料を持って帰れば親は許してくれるだろうと考えたという。

地震で道徳工場倒壊

半年後の12月7日、昼食後、東南海地震が愛知、三重、静岡を襲った。

道徳工場は、日清紡の紡績工場を軍が接收して偵察機の製造工場として広い空間を確保するため、隔壁や間柱を取り除いた。ためにこの地震にはひとたまりもなかった。工員、学徒、挺身隊合わせて57人が建物の倒壊などによって圧死した。うち6名が朝鮮女子勤労挺身隊員で、その一人が金淳禮で、横壁のレンガの下敷きによって親友の金福禮(キムボン)さんの視野の中で死亡した。

金淳禮と仲良しであった金福禮は、1947年1月に、金中坤と結婚した。名古屋での裁判に金中坤と妻の金福禮が原告となったゆえんです。

三菱重工は 挺身隊員に 17ヶ月分の給料を渡さず

給料、食事、女学校

「日本に行って働けばうまいものは腹一杯、給料はもらえて、女学校に通える」と言われて日本に来たが、月々の給料は、「貯金してある」と言われ、手にすることはなかった。

挺身隊員は、第四菱和寮での朝晩の食事も、味噌汁と麦飯、沢庵漬け、工場の昼食も同様で、とにかく量が少なく常に空きっ腹を抱えていた。週に半日くらいの教科書もない日本の歴史らしい講話があったというだけで、憧れの女学校というところには一日たりとも通うことはなく、勉強したいという飢餓感を満たされることはなかった。

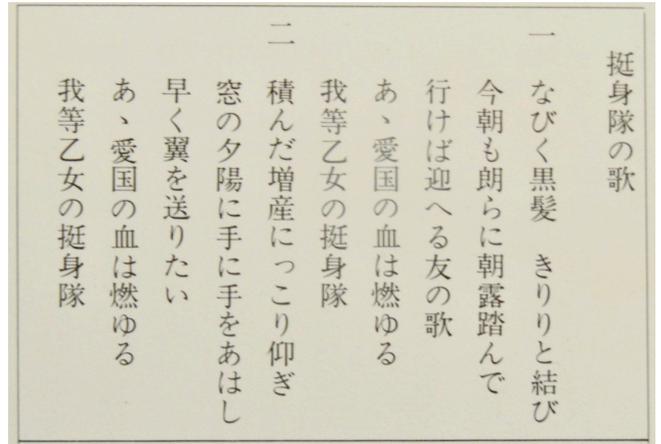


日の丸の左右に神風と染め抜いた手ぬぐいを締め

皇民化教育と創氏改名

皇民化教育を受け、帝国臣民として生きることを教育され、名前も1940年から創氏改名を強いられ、金淳禮は族譜の號の光澤(クァンテ)を採り光澤禮子(ミツワレイコ)と親が改めたという。

日本風に改名した朝鮮の少女たち、東南海地震で生き延びた金福禮たち280余名は、「天皇陛下の御ために」と働かされ、働いた。



植民地支配された朝鮮の少女がこれを歌う

12月7日に道德工場が地震で倒壊、その11日後、大江工場が今度はアメリカ軍B29の爆撃によって破壊された。

道德工場の使える機械を富山に運びだし、翌1945年1月から、工員も学徒も挺身隊員も富山県の大門工場と福野工場に移送され、ずっと働かされた。

給料もらえず 故郷に帰る

名古屋の工場で7ヶ月間、富山の工場で10ヶ月間、寮と工場に拘束され、都合17ヶ月間働かされた挺身隊員280余名。1945年10月下旬に富山駅から朝鮮半島に帰ることになった。

「三菱の担当者は、荷物は持っているかなくともよい、給料と一緒に必ず送り届けると言った」と、韓国光州の第二次訴訟原告・金在林(ムンジェリム)さんが話をしてくれました。挺身隊員を乗せた列車は一路下関へ、下関から玄界灘を船で釜山に、そこから列車で最寄りの駅へ送られ、我が家に帰り着いた。

梁錦徳が家に帰り着いた時、自分の机の上は、17ヶ月前と同じで、日記帳もそのまま置いてあった。

学校に行く素振で「行ってきます」と親に内緒で家を出ていった日も、帰

日本軍「慰安婦」との同一視被害

三菱重工は大法院判決同様三〇〇人に慰謝料を支払え！ 三菱重工は挺身隊ハルモニの人生を償え！ 三菱重工は未払い賃金を払い謝罪と賠償せよ！ 三菱重工は挺身隊ハルモニと誠実に和解せよ！

三菱重工は大法院判決同様三〇〇人に慰謝料を支払え！ 三菱重工は挺身隊ハルモニの人生を償え！ 三菱重工は未払い賃金を払い謝罪と賠償せよ！ 三菱重工は挺身隊ハルモニと誠実に和解せよ！

給料は届かず、74年後も
ってきた日もはっきりしている。

帰郷した少女たちは、三菱重工からの給料を待った。一週間待ち、一月待ち、一年待っても、そして74年待っても給料は届くことはなかった。

給料不払い その放置が

元挺身隊員に給料が届いていたなら、彼女たちの帰国後被害はなかったであろう。少女たちの名古屋と富山での三菱重工の軍需工場で、粗末で量も少ない食事、女学校に通えず、向学心を満たされず、寮と工場の籠の鳥たちであった少女たちも、帰国後、三菱重工から給料が届けば、日本軍「慰安婦」と同一視されることはなかった。

少女たちは「三菱重工で働いたが、給料をまだもらっていない」という声さえ出すことができなかった。

挺身隊員は「慰安婦」だ

結婚適齢期を迎えた少女たちは“挺身隊員は日本軍「慰安婦」”という噂に耳を閉ざし、三菱と挺身隊について口をつぐみ、そしてずっと耐えた。

挺身隊員の 帰国後被害

挺身隊員の出発では、駅頭で盛大な見送りが行なわれた。これが仇にもなって、あの娘は挺身隊員だったと分かると破談に、夫婦仲が険悪に、親子関係に修復し難いひびが入った。日本軍「慰安婦」にされた被害女性と同じ悲哀を強いられることになった。

名古屋の弁護士が、「この挺身隊の裁判を通じて韓国社会で慰安婦との区別はつくようになったが、どちらも植民地支配による被害者。三菱重工や日本政府の謝罪と賠償を通じての名誉回復がなければ、被害者のままで人生が終わってしまう」と述べていました。

東南海地震で死亡した金淳禮さんの兄・金中坤さんと結婚した金福禮さんはこの同一視被害を受けずに生活できた例外のようです。



東南海地による犠牲者追悼碑

東南海地震で死亡した工員、学徒、挺身隊員57名の追悼記念碑前での昨年12月7日の記念写真の部分です。左端の男性は学徒で道徳工場に動員されていた人で「この場に来ると当時の中学生に戻ってしまう。将来ある中学生が工場の倒壊で亡くなり、その母親の心中はいかばかりであったか」と語り、その右の村松寿人さんは、挺身隊員と同じ工場内で働いていた三菱の養成工で、「学徒も、挺身隊員も地震で死んだのではない、戦争によってこの工場に動員されたことによって死亡したもので、戦争さえなかったら中学生や挺身隊員がここで死ぬことはなかった」と話をされた。

この追悼記念碑が建立されたのは、1988年12月4日で、除幕式に招かれた遺族の女性が、「なぜ挺身隊という言葉を使うのか」と時と場をかえ二度怒りをあらわにされた。慰安婦との同一視被害の深さを日本側が知る切っ掛けとなりました。

この11年後の1999年3月1日に名古屋地裁に提訴、生きて戻った280余名の挺身隊員、探し回っても、原告となったのはたったの5名でした。

三菱重工は大法院判決同様三〇〇人に慰謝料を支払え！三菱重工は挺身隊ハルモニの人生を償え！三菱重工は未払い賃金を払い謝罪と賠償せよ！三菱重工は挺身隊ハルモニと誠実に和解せよ！

三菱重工、日本政府よ謝罪と賠償こそが明日を開く

名古屋高裁敗訴そして上告

2007年5月31日、名古屋高裁敗訴。判決は、少女たちを騙して連れてきたことを強制連行、自由のない生活や給料を支払わなかったことで強制労働と認定した。国と三菱重工の不法行為を認定したが、主文が敗訴の原告は泣き崩れた。6月11日に上告、裁判上はもう支援活動はできない、ではどうするか、三菱重工に、不法行為に対する謝罪と賠償を求めよう、7月20日を第1回とする金曜行動を開始した。



品川港南口での金曜行動

金曜行動開始

マイクでのアピールと毎回内容を更新したチラシを手渡す。朝8時15分から9時半までは港南口、10時半から12時までは三菱重工本社前の行動です。

2008年、この金曜行動を聞きつけた韓国光州の太平洋戦争犠牲者光州遺族会の李金珠会長と記者の李國彦さんが金曜行動に参加した。金曜行動を知った光州の市民は、2009年3月に光州に勤労挺身隊ハルモニとともにする市民の会を立ち上げ、三菱への抗議、要請行動を開始した。光州市役所の前にオープンした三菱自動車の展示場に昼休みに三々五々デモをかけた。1年経たずして展示場は、店を閉じた。

三菱重工に挺身隊員への謝罪と賠償を求める東京金曜行動 2012年8月10日から再開355回

光州市民の闘い

2010年の三菱重工に対する署名は13万5千筆余、三歩一拝をもって三菱重工の6月の株主総会に突き出した。

三菱重工和解交渉へ

三菱重工は、2007年からの金曜行動と光州のハルモニとともにする市民の会の活動の圧力を受け、2010年7月から和解交渉の席についた。交渉の期間金曜行動を中止する、交渉内容は他言無用の条件を科せられた。名古屋のスタッフ会議も活動が停滞した。

2年間16回めの席で三菱は言った。原告には一銭も渡さない、韓国からの留学生に奨学金を出す、と。原告側の交渉団は席を蹴った。三菱重工は金曜行動を2年間中断させ、金曜行動の息の根を断つつもりだったのだろう。

金曜行動再開

支援する会は総会を開き、金曜行動再開を決めた。2012年8月10日 再開第1回・通算146回目の金曜行動。今日、これが500回となった。

文大統領の呼びかけ



文在寅大統領は14日の新年の記者会見で原告側代理人が創設提案した日韓両国関係者の協議体に参加する意向を表明した。被害者の同意を得たたちでの解決策を日本側に呼びかけた。

金曜通信使

三菱重工は大法院判決同様三〇〇人に慰謝料を支払え！三菱重工は挺身隊ハルモニの人生を償え！三菱重工は未払い賃金を払い謝罪と賠償せよ！三菱重工は挺身隊ハルモニと誠実に和解せよ！